

第1回 福井市下水道事業経営戦略策定審議委員会 議事録

日 時	令和3年6月30日(水)14:00~16:00	
場 所	企業局 301会議室	
出席者	<p>< 委員 > 田村委員、寺尾委員、南保委員、林委員、吉澤委員(リモート出席)</p> <p>< 企業局 > 前田企業管理者 土田経営部長 海道事業部長 朝倉経営次長 竹澤事業次長 経営管理課(荒谷課長 廣瀬副課長 白崎課長補佐 北矢主幹 中川副主幹 伊藤剛主査 小松主査 塩谷主幹) 上下水道サービス課(高村課長) 下水管路課(前田課長) 下水施設課(内田課長)</p>	
会議録		
1 委員長、副委員長選出		委員長に南保委員、副委員長に林委員を選出
2 議題1		<p>福井市下水道事業経営戦略改定の趣旨と進め方について ~ 事務局より説明後、質疑応答 ~</p> <p>質疑なし</p>
3 議題2		<p>下水道事業経営戦略の概要及び下水道事業ストックマネジメント計画について</p> <p>○「現経営戦略の概要」と「福井市下水道事業の現状と課題」 ~ 事務局より説明後、質疑応答 ~</p>
	委員	<p>今はまだ収入がランニングコストより上回っているが、今後、収入は伸びていかず、これからの改修費用のことも考えると、採算が取れなくなる。福井市の使用料は他市町より安く、職員数を減らすなどコストカットもしてきたが、これ以上は厳しくなってくる。これは、どこの市町においても同じ傾向か。</p>
	委員	<p>福井市は比較的早くから下水道事業に取り組んでいることから、老朽化も進んでいる。改築や更新事業費への対応、人口減少、使用料収入の厳しさについては、全国的に同じ傾向にあると言える。</p> <p>事業に取り組んだ時期や人口など、それぞれの市町で状況は違っているが、いかに的確に対応し、持続可能な経営ができるような計画を立てていけるかがポイントとなってくる。</p>
	委員	<p>特に福井市の場合は普及率が97%と、ほとんど行き渡っており、</p>

		<p>今後の使用料収入はあてにできないだろう。</p> <p>特に耐震補強工事については、阪神淡路大震災などを受け、それに併せて耐震補強のグレードを上げることで、付随する施設についても考慮しなければならなくなる。</p> <p>その辺のバランスを取りながら、コストは下げてハイパフォーマンスな仕事をし、いかに市民に還元するかというのが一番難しい。</p> <p>どのように事業を組み合わせるか、例えばポンプ場でも本体、躯体の耐震、付随する管路・機械・設備など、組み合わせを考えて適切にカットしていくことを考える必要がある。収入がない以上、カットするものを増やすために知恵を出していかないと厳しいだろう。</p>
	委員	<p>事業開始から73年も経っているということだが、福井市は素晴らしい下水道だという意識しかなかった。収入源がないのに人口減少や節水機器等によって、設備費用がかかっていくとこれからどうなるか、修繕にはどれくらいかかるかといったことを市民に理解してもらうため、啓発していくことが大事である。</p>
	委員	<p>ライフラインは生活の利便性を高めているものだが、あって当たり前な感覚があるため、そこに費用をかけることにはもっと理解を求めていく必要がある。</p>
	委員	<p>受益者負担の観点から繰入金をどの程度もらうかのバランスが難しいという話が前回あった。市民からすると、下水道の負担をかけずに一般会計で賄ってくれと思うが、それは税金からの支出になるので兼ね合いが難しい。この先どんな課題があるか見ていきたい。</p>
	委員	<p>私たちが分かる程度まで説明することが必要。キャッシュフローを見て資金が増加していれば、大丈夫と感じてしまうので、現状の厳しさをより分かりやすく伝えるべき。</p>
		<p>○「ストックマネジメント計画」 ～事務局より説明後、質疑応答～</p>
	委員	<p>定期的なリスク評価と長期シナリオを組むことで、コスト総額を平準化するということが一番のポイントだと思うが、ストックマネジメント計画は平成27年度からどこの市町でも策定しているのか。</p>
	事務局	<p>以前は長寿命化計画に基づいてやっていたが、現在は国の交付金をもらうための要件の一つであることから、他の市町でもストックマネジメント計画を策定していると思われる。</p>
	委員	<p>リスク評価だが、福井市の場合、合流式下水道もあるので、雨水も含めてリスク設定しているのか、それとも汚水だけに絞って設定しているのか。平成17年の豪雨や大雪の影響等も含めて、雨水による下水管への負担が大きいと思われるので、雨水の部分も含めてリスク評価すれば、効果が大きくなる。</p>
	事務局	<p>雨水も含めてリスク評価している。</p>

4 その他	<p>委員 事務局</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>投資計画の変更について ～事務局より説明後、質疑応答～</p> <p>事業費の平準化によって、前倒しの予算が増えたということか。 令和元年度に策定したストックマネジメント計画の計画期間総額が191.5億円となり、当初計画より66.4億円増えたことが一番大きい。また、当初から工法が変更され、大規模改築工事で23.7億円の増などもあり、全体で121.1億円の増となっている。</p> <p>今回の資料では、建設費だけにスポットを当てている。次回の話になるのかもしれないが、維持管理費も含めた事業全体のバランスを踏まえながら説明しなければならない。建設費だけを見ると、費用だけが増えたという資料になってしまうので、どれくらいのサービスレベルを提供しようとして、それに対してこれだけの費用が必要だという説明が必要である。例えば、不明水の話もそうだが、こういう建設投資をすることで維持管理費を軽減できるという説明があるとよい。ストック量の適正化についても、今後、広域化などの話をしていく中で、しっかりと考えていくべき。その結果として、財源計画と整合を図った建設投資はこうなるという話をしていかなければならない。</p> <p>市民に対する丁寧な説明をしていく必要がある。</p> <p>なぜ費用が増えたか、事情を踏まえて市民にご理解いただける説明をしていかなければならない。</p> <p>第2回委員会の日程 9月2日(木) 14時～ 301会議室で開催</p>
-------	--	--